



市民参加型インフラ維持管理プラットフォーム

OREN-GE

◆ なぜ「市民参加型」なのか

公共設備・道路の損傷を、市民の「気づき」で見つけて、直す。

インフラ維持管理で、次のようなお困りごとはありませんか？



- 1 老朽化する膨大な公共インフラに対し、点検の担い手・予算が不足している。
- 2 損傷の発見が遅れ、対応が後手に回りやすい。
- 3 現場情報（位置・状態）がデータ化・共有されにくい。

▼ **OREN-GE を活用することで、市民とともに一挙に解決できます！**



- 1 市民の「日常の気づき」を投稿データ化し、面的・継続的にモニタリングできます。
- 2 写真+LiDARスキャナデータ+位置情報を自動付与し、現場を正確に把握できます。
- 3 3D-GISで一元可視化し、優先度を判断して迅速に対応できます。

◆ 市民参加型GISとは

GIS（地理情報システム）は、地図上にさまざまなデータを重ね合わせて可視化・分析できる仕組みです。OREN-GEは、**市民がスマホで投稿した写真・LiDARスキャナデータ・位置情報を3D地図に集約**し、行政と市民が同じ地図を見ながら協働で維持管理を進められます。



投稿から対応までの流れ

1



市民

投稿する

スマホで損傷を撮影。写真／LiDARスキャナデータに、GPS位置・撮影日時を自動記録。

2



クラウド

集約する

投稿データをサーバーへ集約し、一元管理。

3



3D-GIS

可視化する

3D地図上に投稿ピン・スキャンデータを表示し、状況を俯瞰。

4



行政・管理者／工事業者

対応する

状況を確認し優先度を判断。現地対応・補修を行い、結果を市民へフィードバック。

対応結果を市民へ通知し、**継続的な協働サイクル**へ — 「投稿 → 可視化 → 対応 → 通知」を循環

誰でも簡単に、正確な現場データを

■ 投稿アプリ（スマホ）



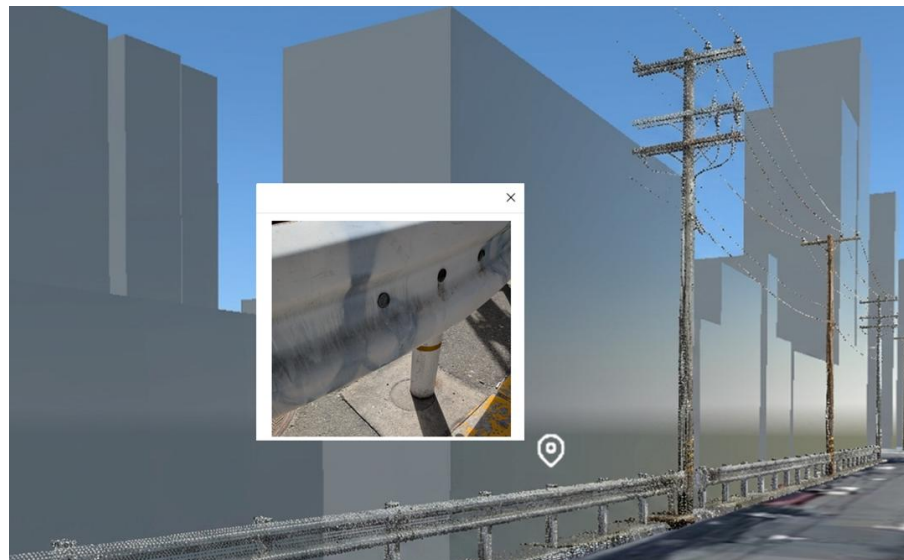
位置・日時は自動付与で入力の手間なし

投稿確認画面でプレイヤー・位置情報・
撮影日時・LiDAR有無を確認して送信

LiDAR搭載端末なら3Dデータも取得（非
搭載時は写真投稿）

※開発中の画面となります。

■ 3D地図で可視化（WebGIS）



※開発中の画面となります。

投稿地点をマップ上にピン表示、クリックで写真・詳細を確認

投稿データを3D空間で確認でき、損傷を立体的に把握



参加を「楽しい体験」に変える仕掛け



※開発中の画面となります。

■ ゲーミフィケーションの仕組み

街を一定サイズのビンゴカードに見立てて、
写真投稿で「ビンゴ」
(マスの広さ・枚数は収集・運用したい範囲に応じて変更可能)

投稿でマスを獲得、
ラインを揃えてポイント獲得

収集期間・リセット条件も、
運用したい期間に応じて変更可能

■ 歩数連携でウェルネスにも寄与

ヘルスケア情報にも連携し、
歩数に応じてポイント獲得

「外出して投稿」が自然な運動習慣に
↓
健康促進と地域貢献の両立



官と民の協働で、地域課題を迅速に解決



行政・管理者

点検コスト・人手を抑えつつ
インフラを監視。投稿データで対応
の優先度判断を支援。



市民

楽しみながら地域に貢献し、健康増
進。まちへの愛着・関心が向上。



地域

損傷の早期発見・早期対応で、
安全・安心なまちづくりを実現。

道路・河川・公共施設など **多分野の維持管理**へ拡張可能

Together, we shape the future.

市民の力で、インフラの未来をアップデートする —— OREN-GE